

NEWS おおいた終活フェアで 語り部が大集合!

2019年11月6日(水)、大分市ホルトホール・大ホールにて大分県で最大級の終活イベント『おおいた終活フェア2019』(主催:株式会社ファイン)が開催されます。同イベントのテーマは『生と死をつなぐ物語』。ステージでは、ソーシャル

ワーカーのミニプレゼンやグループ討議、フラダンスや日本舞踊などが披露される『大分シニアの大文化祭』などが行われます。大文化祭では、**県南落語組合の会長・矢野大和さん**の口演会や、**吉四六の語り部の広田美茶子さん**、**臼杵妖怪話の**

古谷美和さんも登壇。エンターテインメント展示では、**ねんど人形写真作家の渡邊和己さん**の作品も展示される予定です。会場には終活お役立ちブースも多数あり。詳しくは右のQRコードよりチェックしてください。



大分と世界&未来をつなぐオウンドメディア これ一冊であなたも“大分の語り部”

OITA NO KATARIBE

大分の語り部
vol.03
2019.08-09

語り部オススメ本



まんがで読む古事記

(著/久松文雄 出版社/青林堂)

古事記の入門書に最適な一冊

こんにちは! 渡邊です。2012年に鳥根県で開催された『神話博しまね』で、ねんど人形写真を出展することになり、勉強のために手を取ったのがこの本です。昔の人気漫画「スーパージェッター」の作者である久松文雄さんが書いていることもあり、絵柄も優しく読みやすい本です。古事記は様々な登場人物が出てきて名前を覚えるだけでも大変ですが、この本は漫画で場面が頭に入ってくるので、古事記自体の物語の面白みが分かります。日本の神話に興味がある人の入門書として小さいお子さんから幅広い世代の人にも楽しめるオススメの本です!

動画の語り部

KATARIBE the MOVIE

ねんど人形写真作家の渡邊和己さんによる『鬼八伝説』の写真にカボスひるしがナレーションを入れた動画をYoutubeに公開中!



Youtubeで

鬼八伝説

検索

次号予告 矢野大和さん特集



矢野大和さん

10月発行予定の『大分の語り部 vol.04』では、大分県佐伯市宇目町の鷹鳥屋神社の宮司であり県南落語組合の会長でもある矢野大和さんの特集します。

編集後記 先日、地域文化商社『うなぎの寝床』(福岡県八女市)の白水代表の講演を聞きました。海外からの観光客はモノではなくコト(体験)を求めているからガイド役が必要!という言葉が響きました。『大分の語り部』が外国人観光客のニーズにも応えられるようにカボス動きます!(カボス編集長)

大分の語り部 vol.03

発行日: 2019年8月1日(木)

制作: Caboosu (カボース)

編集長: カボスひるし (大分県産タレント)

WEB: <https://www.oita.link/>



白装束や甲冑を着て臼杵の町で妖怪話を語る人



『大分の語り部』編集長のカボスひるしです! 夏といえば怖い話! 大分県臼杵市の妖怪話を、ある時は幽霊姿で、ある時は落ち武者スタイルで、楽しい紙芝居とともに語り継ぐ古谷美和(こやみわ)さんをインタビューしました。決して一人では見ないでください…。なんちゃって!



¥0 TAKE FREE ご自由にお取りください

次号は 2019年10月1日発行

ご自由にお取りください

理屈抜きで恐ろしく 怖いもんがねえといけん

語り部インタビュー

白杵の妖怪を語り続けて20年
古谷さんが見つめる妖怪の魅力



お経が好きな子供

— 今日は幽霊の格好で来てくれたんですね！ありがとうございます！早速ですが、古谷さんはどんな子供だったんですか？
古谷 両親が飲食店を営んでいて家にいない時が多かったので、おばあちゃんっ子でしたね。昔話や妖怪話など、おばあちゃんから色んな話を聞いたことが自分の原点になっています。
— 当時から妖怪は好きだったんですか？

古谷 妖怪も好きですが子供の頃はお経と猫が大好きでした。おばあちゃんの影響でお経が好きになって、修学旅行では友達がお菓子やキャラクターグッズをお土産に買っているところ、自分はお経本を買って集めていましたね。
— ずいぶん渋い子供ですね。でも猫が好きなのは子供らしいですね！

古谷 猫といえば小学2年生の



時に、どうしても猫が飼いたくなって親にお願いしたら「面倒みきれんやろ」と言われて、しょうがないから死後硬直でカチコチになった猫の死体を拾ってきて「これやったらエサも食べんしウンコもしないから飼っていいやろ！」と親に言ったら、怒られたことがありました。
— 猫が好きすぎてちょっと行き過ぎちゃったという事でしょうか…。

骨が好きな高校生

— 中学や高校時代にはどんな思い出がありますか？
古谷 白杵小学校から白杵東中学、そして大分県立水産高等学校に進学しました。高校生の頃は、授業で魚の解体をしたりして、内臓や骨に触れることが多かったですね。骨はシャープでカッコいいなと思っていました。授業では食品科学や食品衛生を学んでいたの、菌類にも興味がありましたね。
— 年頃の女子高校生が好きそうなオシャレやスイーツではなく、内臓・骨・菌類という予想の斜め上に行く言葉が出てきてちょっと驚きました。
古谷 オシャレも興味がありま

したよ。今、右の耳たぶの穴に印鑑が入っていますが、この穴は高校時代に安全ピンで自分で開けました。当時は印鑑ではなく、つまようじを入れていて食後によく使っていましたね。
— オシャレと機能性を兼ねた合理的な耳ピアスですね。

白杵ミワリークラブ

— 社会人になって妖怪話をするようになったキッカゲは何でしょうか？
古谷 高校卒業後、大分の情報誌の白杵支局員としてライターをやっていました。その後、イラストや漫画を描く仕事をしたり、引っ越し屋で働いたりしていました。今でも和ダンスや冷蔵庫を運ぶのは得意です。運び方を教えましょうか？

— 荷物の運び方も興味深いのですが、話を妖怪話のキッカゲに運んでください。

古谷 はい。白杵の市報に4コ



マ漫画を連載していた時に、河童の話を描いたら、白杵ミワリークラブ（以下：UMC）から『白杵の妖怪を広く知らしめてくれたで賞』で表彰されました。それがキッカゲとなって UMC の初期メンバーになり妖怪話を語り継ぐことになりました。

妖怪を使った町おこし

— 『UMC』とは、どんなクラブ何ですか？
古谷 UMC の誕生のキッカゲは白杵の商工会議所青年部の人たちが、お祭りの時に地元の妖怪を使った町歩きゲーム『赤猫クエスト』を作ったことです。その時のメンバーが「俺らの世代で妖怪のことを子供たちに語り継いでいこう！」と妖怪を使った町おこしをするチームを作り、1998年に UMC が誕生しました。
— それで市報の4コマ漫画に妖怪のことを描いた古谷さんが表彰されたんですね。
古谷 そうです。そして『赤猫クエスト』はゲームのルールを説

明するのが難しいから、町を歩きながら妖怪話を語る今のスタイルになりました。夏は夜になると提灯を持って妖怪話をしながら町を歩き、最後は白杵城址で肝試しをししたりしています。

子供に怖いものは必要

— 楽しそうですね！子供たちの反応はどうですか？
古谷 「妖怪とか嘘だ！うちの父ちゃんの方が強いぞ！」とか強がっている子ほど、だいたいビビってます。(笑) その辺の木陰に隠れちゃってね。そんな強がる子ほど驚かせて泣かせる。子供を泣かせて喜ぶ悪い大人の集まりです。(笑) でも、子供には怖いものがないといけんと思います。理屈じゃなくて、なんかよくわからんけど恐ろしいものがある。あれは人間の力ではどうにもならんと吹き込んでいた方が、まっすぐ育っていくんじゃないかな。

次の世代に語り継ぐ

— そういえば『妖怪ウォッチ』

や『ゲゲゲの鬼太郎』など妖怪人気はずっと続いていますね。古谷さんにとって妖怪はどんな存在ですか？

古谷 妖怪は友達です。近い存在で何か大切なことを教えてくれる存在。昔の人は大切な教訓を子供に伝えるために、普通に話しても伝わらないので妖怪を登場させて印象に残るようにしたのではないのでしょうか。
— 子供に教訓を伝えるためのご先祖様からのメッセージということでしょうか。深いですね。これからの目標は何でしょうか？
古谷 これからも白杵の妖怪を語り継いでいきたいですね。白杵のじいちゃんばあちゃんに、UMC メンバーで妖怪聞き取り調査をしています。まだまだ妖怪話があるので調査続けて、形に残し次の世代に繋いでいきたいです。嬉しかったのは、昔、肝試しに参加した子が成長して UMC に入ってくれたんですよ。私自身が語り継ぎながら次の世代の語り部を育てていきたいと思っています。
(聞き手：カボスひろし)

私の好きな妖怪話

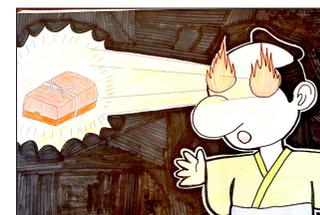
100種類以上白杵妖怪話の中から古谷さんが選んだベスト3をご紹介します



第1位 せっちゃんばあさん
トイレをきれいにしとかんと便器からウンコを持って出てくるばあさんの話。



第2位 白殿(しろどの)
大火にあった殿様を助けたため、白杵城内に迎えられた白いきつねの話。



第3位 火の玉を食べた男
火の玉を食べてなんでも見通せる目を持ってしまった男の不運な話。